

## イタリアンライグラス長期利用品種選定試験

上田 允 祥・\*野口 義 之

(福岡県種畜場 \*農政部畜産課)

UEDA, M. and NOGUCHI, Y.

## On the Comparison of Year-round Cultivation Varieties of Italian Ryegrass.

低暖地でのイタリアンライグラスの利用は早春から6月までが主であったが、近年越冬性の高い品種、系統の育成により長期利用が可能になったという報告もすくなくない。本試験では播種時期の相違、標高差に基づく気温と生育との関係につき調査を実施し、若干の知見を得たので報告する。

## 1. 播種期と品種の特性に関する試験

那系(19, 21, 24号)、友系5号、愛知系1号、マンモスA、オオバヒカリを供試して秋まき(11/4)、春まき(3/11)別に収量、出穂状況、越冬性等について検討した。

越冬性におよぼす要因として気温が大きい、目長の影響も大きく、早生系の品種でも短日条件にすることにより、出穂が抑制され越冬が可能になる場合もあることから、一般に限界日長大な晩生種が有利と考えられる。供試7品種の7月時点での出穂状況をみると、春まきの場合、出穂はすくなく、特に那系21号、マンモスAは出穂程度は低く、一方秋まきでは全品種共出穂したが、特に那系21号、マンモスAは出穂程度低く、もともと限界日長大な品種と考えられた。これら品種は冠銹病に対する抵抗性も大であるが、収量面からは7月が限度であった。

第1表 試験構成

項目	30 m	250 m	350 m
標高			
品 種	那系 19号 那系 21号 マンモスA ジャイアント	那系 19号 那系 21号 マンモスA ジャイアント	那系 21号 マンモスA
播 種 期	S47.11. 7, S48.10. 8	S47.11. 2	S48.10. 28
場 所	福岡県種畜場	嘉穂郡筑穂町	糸島郡前原町

## 2. 標高地帯別品種選定試験

第2表は標高地帯別の乾物収量を示したものである。

第2表 乾物収量 (kg/a)

標高	年 月 日	品 種		マンモスA	ジャイアント
		那系19号	那系21号		
30 m	48年 4~7月	93.4	98.1	99.9	99.5
	49年 4~7月	152.5	163.7	135.1	141.1
	2ヵ年平均	123.0	130.9	117.5	120.3
	7月対標比 %	100	114	79	96
250 m	1年次 4~10月	106.5	151.7	112.8	122.4
	2年次 4~10月	101.0	129.4	—	—
	2ヵ年合計	207.5	281.1	112.8	122.4
350 m	5. 12	/	35.9	35.8	/
	6. 25		44.6	49.7	
	8. 7		23.0	19.8	
	10. 9		23.8	15.2	
	12. 25		24.0	15.8	
	合 計		151.3	136.3	

標高30m地帯では4~7月の利用が適当で、それ以降の利用は不利でヒエ類、トウモロコシとの組合せが考えられる。標高250m前後では那系19, 21号について2年程度の利用は可能であったが草生の悪化が著るしく、収量も低いことからみて秋季に追播の形態が有利と考えられた。

一方350m地点では周年利用が可能であり、夏季の収量低下もすくなく、翌春の草生良好で基幹草種として利用できると考えられた。

那系21号は全国各地の試験結果でも極晩生種として認められ「ナスヒカリ」として登録され、今後ナスヒカリの効率的利用方法について検討する必要がある。